

	課題分析	授業改善策	改善状況
国語	<ul style="list-style-type: none"> ・課題にまじめに取り組む生徒が多いが、基礎的な内容が定着していない面もある。授業時間外の反復学習や課題の見直し等の習慣付けが必要である。 ・読書の習慣が身に付いている生徒とそうでない生徒がおり、読解力にも差がある。 ・根拠をあげてしっかりと意見を述べる、聞くという話し合い活動をどのように進めるかの工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習ノートを活用し、定期的に小テストを実施することで、漢字学習の習慣を身に付けさせる。また、教科書の補助学習教材を課題として活用することで、家庭学習の定着を目指す。 ・朝読書や読書感想文の指導において、読書の有効性および学習への活用を伝えていく。 ・1学年のスピーチ、2学年のパネルディスカッション、3学年のブックトークおよびワールドカフェの指導を軸に、言語活動を積極的に授業へ取り入れていく。 	<p>○：新型コロナウイルス感染予防に留意しながら、一定の距離を取ったグループ学習や、制限した時間内の言語活動を行っている。</p>
社会	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式の授業とグループ学習とをバランスよく組み合わせ、全員が積極的に参加できるような工夫をする。 ・生徒に、知識や考えたことをまとめさせて、それを文章化し発表させる機会を増やす。 ・学習進度が計画から大幅に遅れがちになるため、より効率的な学習計画を立て直す必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・板書ばかりの講義形式の授業展開だけにならないよう、ワークシートや視聴覚資料を効果的に活用する。 ・文献資料・地図・写真などの資料を多く取り入れるようにする。 ・多くの生徒が興味・関心をもてるように、新聞やテレビでの報道なども利用して、できるだけ現代の社会事象と結び付けた指導を進める。 	<p>○：新型コロナウイルス感染予防を続けながら、徐々に話し合い活動も取り入れている。</p>
数学	<ul style="list-style-type: none"> ・理解できていない部分の定着を図る指導を行う。 ・授業に対する姿勢はよいが、受け身な生徒もいる。発問に対し積極的に考え、発言できる姿勢を身に付けさせる。 ・わからない問題を自分で解決しようとする生徒が増えてきたが、間違いに気付かずに先に進んでしまい、結果的に誤答をしてしまう生徒がいるので、その都度注意が必要である。また、発展的な内容に関する取組を苦手としているので、問題を数多く解き、苦手意識を取り除くこと、じっくり考える力を付けることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で取り扱った内容について、課題プリントを与え繰り返し演習を行う。 ・受け身な生徒、自力だけでは演習に取り組めない生徒については、その授業の中で個別に指導する。学力向上支援講師を活用する。 ・基礎計算の部分で同じ間違いを繰り返しているため、同じ系統の問題を繰り返し解かせていく時間をとる。文章問題に関しては、立式ができない等の課題があり、繰り返し解かせていく指導が必要である。的確なコース分けを行う。学力向上支援講師を活用し、生徒が質問しやすい状況を作る。 	<p>○：多くの生徒が前向きに取り組めてきた。習熟度別少人数授業で適切なコースを選択しており、標準コースでは学力向上支援講師に積極的に質問している。</p>

理科	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の事象に関する興味関心は高く知識が豊富な生徒は多いが、それぞれの事象を科学的な視点で捉え、考察する経験が不足し、知識を詰め込む学習が中心となる傾向にある。一つ一つの事象の問題点を見出し、観察実験の結果を分析・解釈して、科学的に考察する力の育成が課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活に関係する教材を導入し、常に『なぜそうなるのか』を生徒が意識できる指導を繰り返す。また、観察実験では表やグラフを活用し、その結果を分析・解釈して考察する機会を与え、自らの言葉で表現する指導を続ける。さらに、観察実験と同様の事象を科学的に考えることで学習内容を振りかえり、知識偏重とならない指導を続ける。 	<p>△：新型コロナウイルスの感染予防を続けながら観察実験を中心とした指導を続けている。</p>
音楽	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的、基本的内容を定着させるために、音楽用語、読譜力などについて、繰り返し、確実に理解させる。 ・与えられた課題だけにとどまらず、自主的により深く曲を分析する姿勢を身に付けられるように自ら考え、学習していく力を付けさせる。 ・アルトリコーダー・箏についての基本的奏法を身に付けさせ、表現の工夫を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実技の基礎、歌唱では声の出し方、器楽では構え方から丁寧に指導する。また、楽典についても、プリントなどを作って基礎から行い基礎力を上げていく。 ・意欲をもって取り組んでいけるように、教科書などの教材にとらわれず、様々なジャンルの曲を取り入れ、授業に興味・関心をもてるようにする。 ・パート練習の時を中心に、声の出し方等の個別指導をしながら、生徒の実態を把握し、教員が個々の理解に努める。器楽においては、アルトリコーダー、箏の指導について、一人一人の技術や進み具合を把握して、個々に合った進度で、課題を進めていくようにさせる。 	<p>△：新型コロナウイルス感染予防や区の指針に従い、できるものを工夫したり、指導計画を入れ替えたり、代替案を考えながら指導を続けている。</p>
美術	<ul style="list-style-type: none"> ・関心・意欲はあるが、アイデアを考える段階から先に進めない生徒が多い。見る・聞く・触れる・想像するなどの実体験の不足が原因と考えられる。その結果として作品を仕上げるまでの時間が多くかかりすぎる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージしやすいように参考作品を提示または展示する。 ・作業が遅れている生徒には昼休みや放課後の時間に補習授業を行う。 ・作業が苦手な生徒には、学校生活支援員や学習指導サポーターを活用する。 	<p>○：新型コロナウイルス感染予防に配慮した作業を中心とした指導を続けている。</p>
保健体育	<ul style="list-style-type: none"> ・走る、跳ぶ、投げるなど基本的な運動能力が不足している生徒が多い。 ・真面目に一生懸命取り組むが、練習に対しての工夫が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・種目に応じて、不足している能力を補うための補強運動を実施する。 ・課題解決のヒントや模範演技を多くしたり、大きく褒めるなどして、練習意欲を向上させる。 	<p>○：真面目に取り組む良さを前面に出しながら、意欲的に授業を行っている。</p>

技術家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・多数の生徒が興味・関心をもち前向きな姿勢で取り組んでいる。しかし、実体験不足から技能や創意・工夫に関する力が不十分だと思われる。 ・基礎的、基本的な内容を十分習得させ、さらに生活に生かす力を身に付けさせる題材や指導方法を工夫する必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活に生かせる力を身に付けさせるために、日常生活と関連付け、より実践的・体験的な製作と実習を多く取り入れた授業を考える。 ・製作を通して仕事の楽しさや完成の喜びを味わえるように工夫する。生活に必要な技能の定着を図る。 	<p>△:新型コロナウイルス感染予防や区の指針に従い、予防を続けながら作業を中心とした指導を続けている。</p>
外国語	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中は理解できているが、学習事項の定着に至らない生徒が多く、授業での反復練習や家庭学習の質を高める工夫が必要である。 ・基礎、基本をもとに、場面に応じた表現を正しく運用する力を身に付けさせ、実践的なコミュニケーション能力を伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・単語テストなどを定期的に行い、語彙力の強化を図る。パフォーマンステストを実施するなど、4技能をバランスよく指導していく。ALTを活用し、実践的な英語運用能力を高めていく。 ・少人数授業により、一人一人の発話量を増やし、実際に英語を使用してコミュニケーションを図る活動を充実させる。また、個々の生徒に応じた指導を工夫する。身近な話題を取り入れ、デジタル教科書やICTを活用しながら、生徒の関心・意欲を高められる授業を工夫していく。 	<p>○:積極的に言語活動に取り組む生徒が増えてきている。</p>

◎…優、○…良、△…可